

ビジョン	自分自身でやりたいこと	地域の仲間とやりたいこと	小山市と共創したいこと	他地区と連携してやりたいこと	優先順位
「みんながつながる」まち 東部は工業団地と農地が広がり、中央は住宅と商業施設、自然豊かでにぎわいがあり、西部は琵琶塚古墳・摩利支天塚古墳や「東島田ふるさとの森」など文化と自然が感じられ、経済・文化・自然がバランスよく共存しています。また、多様な住民が協力して暮らし、高齢世代による地域を良くするためのチャレンジ精神が若い世代に受け継がれています。	・地域の歴史の深掘り。飯塚在住のため、摩利支天や琵琶塚などは昔から知っている。江戸などの近代史の中について、詳しく学びたい。	・桑地区全体で交流する機会をつくる ・萱橋地区、羽西地区では地域のイベントがなくなってしまっている地区もあるため、桑地区全体で楽しめるイベントを開催したい			
多様な地域住民のつながり 南半田や羽川のおはやし、祭りなどの交流イベントが活発に開催され、住民の市政への関心が高く、地域活動によって発展してきました。子育て世代の負担を減らそうと高齢世代がこどもの学習を支援するなど、住民同士が協力し合う文化が根付いています。	・子どもたちが活躍できる機会をつくりたい（育成会がなくなっているところもある） ・地域に挨拶的に声掛け ・お祭りが存続するように毎年の準備をやっていきたい ・1人住まいの高齢者を地域全体で見守る ・趣味で始めた刃物の研ぎ職を極めたい。定年前後に初めて20年の経歴。近所からも喜ばれている。やりがいを感じている。後継者がいないのが残念 ・高齢者の働き口をつくるNP0経営（働き手の不足解消と高齢者の社会参加を兼ねて）	・核家族が多いから自治会でまるっとイベント開催したい ・小中学生も一員、若い世代を自治会に ・地域の事業を継承したい ・地域のお祭りや風習を残したい。小中学生にどんどん参加してほしい ・元気フォーラムを核にして地域全体、世代問わずつながりたい ・萱橋のお祭りは神輿の担ぎ手がいない。神輿会の会長のネットワークで全国から担ぎ手をよんで、こちらからも色々な地域に行っている ・お祭りやイベントは参加するまでが大変。参加すれば楽しい。昔からのイベントだと新しい人が入りにくい。もっと入りやすい雰囲気づくりが大切 ・ゴルフをやりたい。ゴルフは歩く、競うということで健康寿命にも良い効果がある。地域の皆様や他地区とやりたい。	・限界集落への対応 ・市の事業は、若い世代が参加できる土日に開催を！ ・地域でやっているイベントに関して行政に少しでもバックアップをしてもらえると盛り上がる ・移住者とのかかわりがないので話し合う場所、交流拠点が欲しい ・桑中で地域全体がつながる。地域の人が講師になって地域のことを教える 地域の子ども食堂の充実 ・ゴミ・交通・高齢者対策・人助けなど近年、外国人が増えゴミ出しの問題があるが、1回指導すれば、理解していただけてその後問題なく対応していただいてる。	・鬼怒川、思川を利用したイベント（魚のつかみ取りなど） ・悩み事を他地区と話し合う会の開催	
公共交通・交通環境の向上 バスの増便や停留所整備により免許を返納した方も暮らしやすく、下野市・絹地区は生活圏の一体性が高いため、アクセスの良さを生かした魅力をつなぐ回遊ツアーも開催されています。また、マルベリー館を中心として東西南北をつなぐマルベリーロードにより、地域内アクセスが良好になりました。			・羽川駅をつくってほしい		

ビジョン	自分自身でやりたいこと	地域の仲間とやりたいこと	小山市と共創したいこと	他地区と連携してやりたいこと	優先順位
文化・歴史・スポーツの充実 琵琶塚古墳・摩利支天塚古墳周辺に史跡公園が整備され、神社では伝統行事が開催されるなど文化と歴史が生活に根差しています。小山運動公園の施設が新しくなり、スケートボードやウォーキングなど幅広くスポーツを楽しむことができます。					
自然を通じた地域交流 「東島田ふるさとの森」や元旦に大沼から筑波山を眺望する「ダイヤモンド筑波」など、自然を楽しめる場所に多くの人が訪れ、平地林や水辺の保全活動を通して自然と共生する風土が醸成されています。	・若い人たちと一緒に除草活動。新しい住民たちとの交流。 交流の機会がないので地域活動を通して交流したい	・猪減らす。近年急激に増えており、今日も3頭捕まえてきた。カメラなどを確認すると、20頭ぐらいがまとまって行動している様子が確認できたりする。	・弁天沼を水辺として整備し、蛭を復活させたい ・スバル前の雑木林（喜沢）を活用したい	・地域資源としての農業や大沼を中心とした交流拠点を擁することを活かして、他地区との交流を行いたい	
多彩な農業と養蚕文化 多様な作物生産や新たな技術の導入により、若手農家・新規就農者が増え、農業を軸に地域が活性化し、学校では養蚕体験学習が行われ、養蚕は美容・医療用、桑は飲食用に活用されるなど再び注目されています。	・桑や養蚕を中心にした農業を復活したい ・農業体験をとおして交流したい	・高齢者の知識や技術を継承したい。農業やお囃子など ・・農業をやるにもしっかりとした経営の柱ができるように若い人も熟練の農家から技術を学べたらいい	・空き家対策で農村部への移住者を呼び込めるような取組みで農地＋住宅に若い人に来てもらえるようにしたい ・農業振興地区問題の解消 ・農業が地域の資源。気候変動対策としても、担い手不足の解消に対して行政のバックアップも受けたい	・農業振興地域の問題点の共有する交流会を開催して問題の解消を図る ・農産物を市街地の人に届けたい	
地域全体で子育てを支える 遊具が充実した公園が増え、子育てしやすい環境づくりが進み、マルベリー館では多世代交流が活発で、こどもに教え、伝える活動や子育てサロンが開かれるなど、地域のつながりが深まっています。	・上の世代が変わっていくこと（子育て世代の確保のため） ・子ども達の学習能力の向上	・子どもの将来を考え、ママ友だけの集合体ではなく育成会を活用する ・子供たちに地域の行事へ参加してもらいたい ・高齢者もかかわれる仕組みをつくり、地域で子供たちを育てる方向に進みたい	・子ども政策の充実（流山市） ・子育て世代の確保		

ビジョン	自分自身でやりたいこと	地域の仲間とやりたいこと	小山市と共創したいこと	他地区と連携してやりたいこと	優先順位
新たな交流の創出 国道4号沿いにチャレンジショップやカフェなどが並び、若者が集まる新たなにぎわいが形成されています。大沼周辺では農産物直売所やクラインガルテンなどが整備され、地域内外の交流が活発になっています。		・大沼に花を植え、ひたち海浜公園のようにしたい ・高齢者と子どものかかわりをつくる。特に大沼は、高齢者が安心して憩え、子供たちの広場となるようにしたい	・移住の補助金（境町） ・工業団地が多いため、その近くに社宅を作って人を呼び込みたい ・大沼周辺を憩いの場にしたい ・大沼周辺を子供たちが過ごせる場にしたい ・大沼ではアオコが発生し水の透明度が著しく下がった。浚渫が必要ではないか。浚った汚泥は肥料にできないか。 ・大沼の池干しは必要だが、冬季に行くと冬鳥（渡り鳥）への影響が大きい。秋の雨季に防災を兼ねて水を抜いてはどうかと思うが、水利組合に拒否された。利水、防災、環境保全を合わせて満足する池干しができないか ・大沼は周辺と一体化して整備できればと思うが、農振地域で調整が困難とのこと。土地利用のあり方を見直せたらと思う	・大沼周辺で都会の子供に来てもらい、農業体験をとおして交流したい	
そのほか	・仕事とは関係のないことを始めたい。自然食品など	・人口減少は避けられない。行政サービスの低下は承知の上で新技術（IT等）も活用しつつ地域で高齢者を支えたい	・小山市のPRをもっとする（NHK栃木630で鹿沼は多い） ・人口問題について行政とともに考えたい ・桑中がもっと魅力のある学校になってほしい ・共創の前に、第二に市南部に比べて北部は病院などの公共施設が少ない。市はバランスをとって欲しい	他の自治体と連携（先進事例の取入れ） ・情報共有をしたい ・防災対応。年1回でも交互に実施する。 ・桑地区には飯塚のように地形的に水害に遭いやすいエリアも含まれる。こうしたエリアの人びとが、災害時により安全な位置にある避難所を利用できるよう、桑地区内の各エリア間や他地区との間での連携を図れるとよい	